

人と人とがコミュニケーションをとる際、第一印象でその後の相手との関わり方が決まるといいます。

人は外向型や内向型、積極的や消極的など、様々なタイプにあてはめることができます。血液型にも特徴を見ようとしたり、性質・性格診断テストを受けると、自分の知られざる一面が表れることもあります。

人と人とがコミュニケーションをとる際、第一印象でその後の人間関係が左右するとも言われます。私たちは、相手の目線や話し方、言葉遣い等によって、「今後、積極的に関わりを持ちたい」「どちらとも言えない」「できることなら付き合ひは御免被りたい」等のタイプに分けてはいないでしょうか。

例えば、「傲慢・不遜なタイプ」と「謙虚で裏表のないタイプ」の二つに分けることもあるでしょう。どちらのタイプが好かれるかといえば、後者ではないでしょうか。しかし、後者には、本音をうまく隠すタイプもいて、見極めるのは非常に困難です。突発的な事態の折に、馬脚を現すまで、その真偽はわからないものです。

この「馬脚を現す」とは語源辞典によると、「芝居で馬の脚を演じる役者のことである。馬の脚役を演じる役者が芝居中にうっかり姿を現すことから、隠しておいたことが明らかにすることを言うようになった」とあります。このように心の奥底にあるものが現象化することを、「化けの皮が剥がれる」「尻尾を出す」「お里が知れる」



5月のテーマ

今日の外に人生はない

明朗闊達な心境を 追い求め、謙虚さを保つ

といえます。

さて、人は一度、馬脚を現すと、その後の仕事で信用を失い、人間関係に悪影響を与え、取り返すには相当な時間とエネルギーを要することになります。

心に思うことが言動となつて現象化するので、心を常に美しく保つ努力が求められるでしょう。言い換えると、「平常心をよりよく持ち続けられるように心を鍛錬する以外に道はない」ということです。

では、どのように心を鍛錬すればよいのでしょうか。倫理研究所、二代目理事長の丸山竹秋は、「正しい判断は明朗闊達な心境に添うのである。急がず、あわてず、心配せず、どうすることが最も周囲の喜ぶことになるかを静かに熟考する。その時、自ずから取るべき道が見えてくる」と手がかりのヒントを教えてください。

常に明朗闊達な心境を追い求め、これを平常心とすることが一番の近道となるのです。それには、一日、いや、瞬間、瞬間に明朗闊達な心境を保つ実践の積み重ねが問われます。日常の中で「急がず」「慌てず」「心配せず」、加えて「どうすることが最も周囲を喜ばすことになるか考える」という実践を積み上げていくのです。

そうすれば、小さな己の欲から離れ、横柄な態度が雲散霧消し、謙虚で裏表のない立ち居振る舞いになります。一朝一夕では、心は磨けません。日々、一つひとつの場で心と気を配り、家庭、職場、地域など、どのような場でも必要とされる自分であり続けたいものです。